



2015年9月11日

## テムリック株式会社

各位

米国 Syros 社と TM-411 の北米および欧州における  
ライセンス契約を締結

テムリック株式会社（本社：東京都新宿区 社長：浴本 久雄、以下「当社」）は、Syros Pharmaceuticals, Inc.（本社：米国マサチューセッツ州 CEO：Nancy Simonian、以下「Syros 社」）と当社が保有する TM-411 の北米および欧州における独占的な開発・販売の権利を付与するライセンス契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

ライセンス契約の内容および目的

当社は開発コード TM-411（一般名：タミバロテン）のがん適用に関する北米および欧州における独占的な開発・販売権を Syros 社に許諾するライセンス契約を締結いたしました。当社は、昨年6月に本剤を小児がん治療薬として大原薬品工業に日本国内における独占的な開発・販売をする権利を許諾しております。

Syros 社は独自の遺伝子を制御する基盤技術(gene control platform)を用いて疾病患者の組織を採取・分析し、各々の疾患が細胞レベルでどのような機能不全に陥っているかを調べ、それを回復する医薬品について研究開発を行っております。

Syros 社は同社の基盤技術を用いて急性骨髄性白血病(AML)、骨髄異形成症候群(MDS)の患者由来のサンプルについて解析したところ各疾患にサブセットが存在することを見出しました。このサブセットは AML、MDS それぞれにおいて約 25%存在し、TM-411 の受容体であるレチノイン酸受容体 (RAR $\alpha$ ) が強発現していることが確認されております。TM-411 は RAR $\alpha$  を強発現しているバイオマーカー陽性 AML の患者由来の癌細胞移植モデルマウスにおいて抗腫瘍効果並びに延命効果を示し、一方、バイオマーカー陰性の移植モデルでは効果を示しませんでした。AML、MDS は再発率の高い疾患であり、TM-411 が Syros 社の技術を用いた新たなコンセプトにより開発されることを期待しております。

今後は Syros 社において AML、MDS を対象とした Phase II 試験を 2016 年中に米国にて開始する予定であります。





※タミバロテン

東京大学薬学部において創製されたレチノイン酸誘導体（レチノイド）で、既存薬に比べ化学的安定性並びに安全性が改善された、強い分化誘導活性を示す薬剤です。国内においては東光薬品工業株式会社が開発し、2005年4月11日に「再発又は難治性の急性前骨髄球性白血病（APL）」の治療薬として承認され、2005年6月「アムノレイク錠 2mg」として発売されました。

● テムリック株式会社

本社 東京都新宿区北新宿 1 丁目 12 番 12 号

資本金 1,000 万円

代表者 代表取締役社長 浴本 久雄

業務内容 がん領域に特化した創薬事業

URL: <http://www.tmrc.co.jp/>

● Syros Pharmaceuticals, Inc.

本社 480 Arsenal Street, Suite 130, Watertown, MA 02472, U.S.A.

代表者 CEO: Nancy Simonian MD

業務内容 がん遺伝子の主要スイッチを標的とした創薬事業

URL: <http://www.syros.com/>

\*このリリースに関するお問合せ先

テムリック株式会社 管理部

東京都新宿区北新宿 1-12-12

Tel: 03-6279-1085

